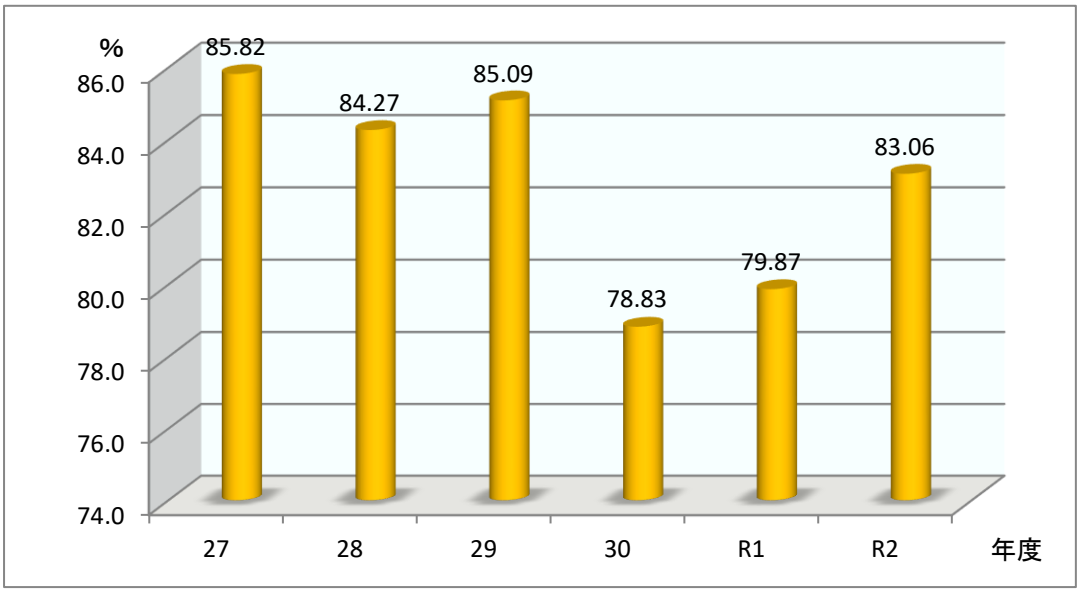
23-1　手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率

解説

肺塞栓症は血栓（血のかたまり）が肺動脈に詰まり，呼吸困難や胸痛を引き起こす疾患であり，程度によっては死に至る場合もあります。長期臥床や骨盤部の手術後に発症することが多く，エコノミークラス症候群も肺塞栓症の一種ですが，入院中においては適切な診療により，かなりの部分が予防可能です。

実績



自己点検評価

30年度以降、中リスク以上の手術における肺血栓塞栓症の予防対策実施率には改善が見られ、昨年度からは大きく改善している。 一方では、全国平均の90.25%には達していないことから、今後も実施率の改善に努める必要がある。

定義

肺塞栓症リスクの高い患者に対する，予防対策の実施割合。

算式

分子：危険因子手術を行い，かつ，抗凝固療法薬を使用したまたは管理料を算定した患者数
分母：危険因子手術を行った患者数